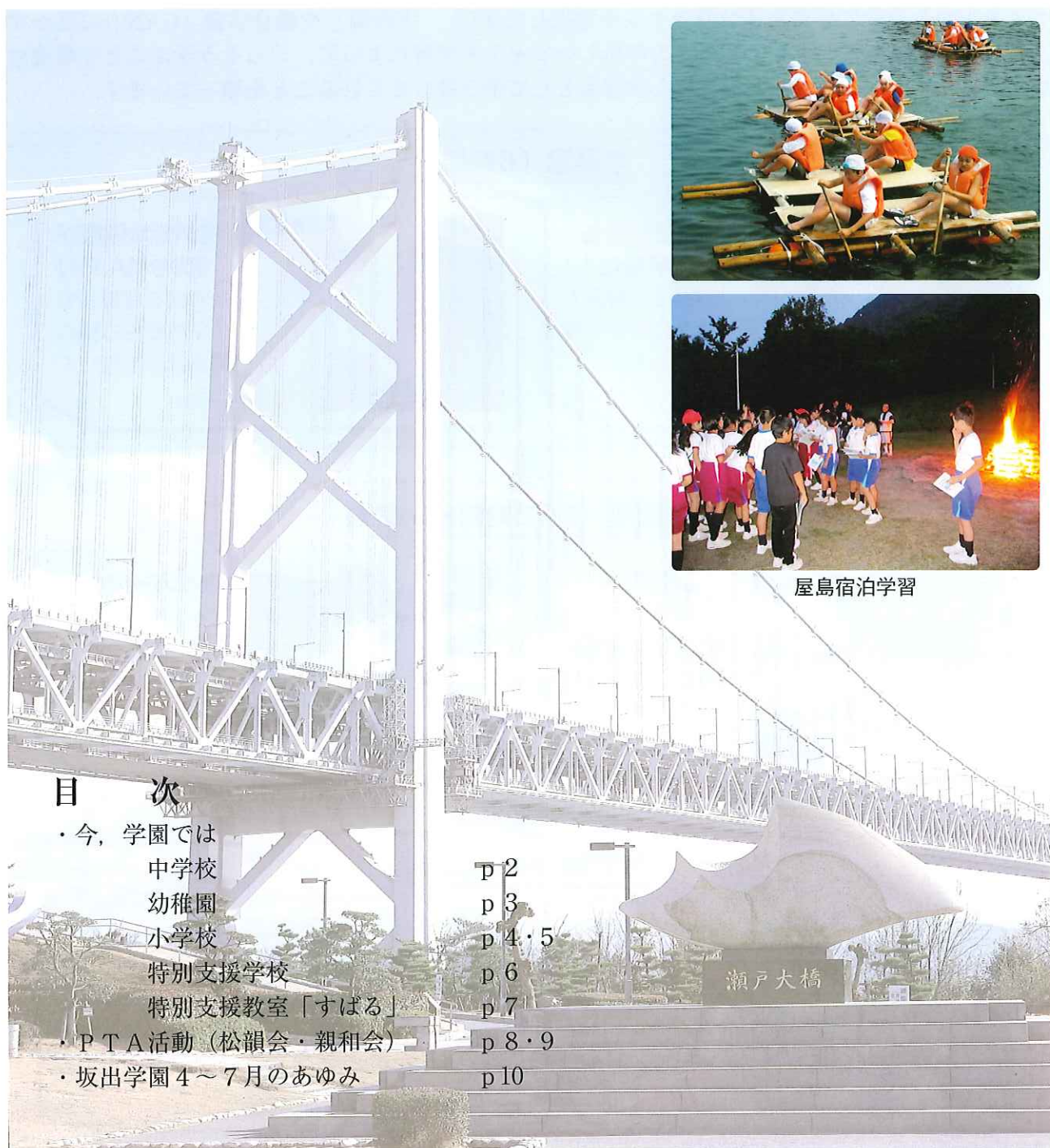


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第39号

2011.7



屋島宿泊学習

目次

- ・今、学園では
 - 中学校 p 2
 - 幼稚園 p 3
 - 小学校 p 4・5
 - 特別支援学校 p 6
 - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園4～7月のあゆみ p 10



「学ぶこと」と「生きること」の統合

— かかわり合う中で、自己の学びをつむぐ —



シャトル学習が新しくなりました



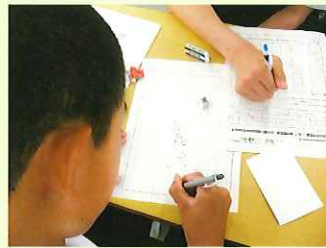
シャトル学習マスコットキャラクター「シャトルー」：3年生 森 百合恵さん作

昨年度までも「シャトル学習」は、総合学習「CAN」における探究学習に必要なスキルを学ぶ場として実施してきました。今年度は、各教科が開設する講座内容を「基礎編」と「実践編」に分けることで、探究の仕方をよりスモールステップで確実に習得できるよう工夫しています。さらに、「基礎編」と「実践編」の間に「特設講座」を設け、コミュニケーションやデータ分析など16の基本スキルから自分に必要な3つのスキルを選択して学び、「実践編」や総合学習「CAN」に活かすことができるように改善しました。この新しいシャトル学習によって、いっそう学ぶことや研究の楽しさを知り、一人ひとりが自立した学習者として学び続けてくれることを願っています。

基礎編（8時間）



**「今日から君も
科学者だ！」**
音の高さに関係する変数は何かを探究しました。



**「風が吹けば桶屋が
儲かりMATH」**
散布図を利用して、今年の稚内の桜の開花日を予想しました。

特設講座（1回2時間×3講座）



「情報収集A」
新聞を通して、多様な意見や見方を分析し、自分なりの考えをまとめていきました。



「プレゼンテーション1」
キャッチコピープレゼンテーションを体験し、プレゼンテーションスキルを高めました。

実践編（12時間）



「わかるカナ？」
「カリスマ」の語源はドイツ語だった!?身の回りのカタカナ言葉に迫ります。



「スピード探究」
投げる、走る、打つなど様々な動作のスピードを高める方法を探り、実践します。



カレーライスパーティーをしたよ！

6月23日に、全園児が心待ちにしていたカレーライスパーティーをしました。



～エピソード①～

今年の3月8日。今の青組さんが赤組さんのとき、畑にじゃがいもを植えました。毎年この時期には年長さんから年中さんへの畑のバトンタッチがあります。種いもを植えるまでに畑の草を抜き、土を掘り起こし、ふかふかの土にして畝をつくります。その過程も大切にして、大きなじゃがいもに生長するのを楽しみにしながら、みんなで一緒に植えました。

～エピソード②～



種いもを植えてから、「大きくなあれ～」とお水をあげたり、自分だけではなく友達の芽が出たことにも感動したり、時には草を抜いたりしながらじゃがいもを育ててきました。生長していく姿を肌で感じながら迎えた6月。じゃがいもはすっかり大きくなりました。次は収穫です。土の中から出てくるじゃがいも！それに感動して「うわ～！いっぱい出てきた！」「見て！こんなに大きいよ」と畑は大にぎわいです。とれたじゃがいもの重さを量っている人もいます。持った感触やはかりの針の振れ幅で重さを感じ取っていました。



～そして迎えたカレーライスパーティー～

6月23日。いよいよ青組のカレー作りの日です。包丁の持ち方や渡し方、包丁を持たない手はネコの手、材料は年少組の黄組さんの口にも入るように切るなど、大切なことがたくさんあります。でも、さすが年長の青組さん。真剣なまなざしでトントントン！と、上手に材料を切ります。頼もしい姿です。みるみるうちに出来上がりました。



幼稚園の中に「なんかいい匂いがする～！」とカレーの匂いが漂い始めたら、待ちに待ったカレーライスパーティーの始まりです。1つのテーブルに青・赤・黄組の子どもたちが座ります。できたばかりのぬくぬくのカレー。黄・赤組さんのご飯が入ったお弁当箱にカレーを入れてくれるのは青組さんです。しっかり両手に持って「どうぞ」とカレーを一人ひとりに届けてくれました。その気持ちに応え「ありがとう」と言葉で心を通わせていました。

「いただきます」でパクッと食べたカレーライス。「ん～おいしい！」とあちらこちらから声が聞こえてきます。青組さんは自分たちで作ったカレーをおいしいと言ってもらえたことで、うれしさや大きくなった自分を感じ、また、友達と協力する大切さも感じたことなのでしょう。また、黄・赤組さんは「青組さんってすごい」「ありがとう」と憧れや感謝の気持ちを抱いたと思います。とても素敵なカレーライスパーティーでした。心もお腹もなんだか幸せでいっぱいになりました。

知の更新をめざした「思考力」の育成（三年次）

－特別支援教育の視点を生かして、思考様式を共有化する授業づくり（仮）－

附属坂出小学校では、言語活動を充実し、考える術である思考様式を共有化する授業づくりを通して、子どものもつ認識が新たになるような「思考力」を育成しようと試んでいます。本年度は、思考様式の有用性を、体験を言語化する教材により個が「実感・納得」し、集団吟味により学習集団が「承認・合意」するために、特別支援教育の視点を生かした働きかけを行うことに取り組んでいます。

以下に、実践しました授業をご紹介します。

●●● 研究授業 ●●●

2年 図工科「ゆらゆらうごく ふしぎないきもの ーかみコップのかざりをくふうしてー」

小出 泰弘

6月1日

2東
図画工作科

大学との合同研究集会

上下に動く紙コップ。これに付ける飾りが楽しく動くようにするとき、見た目の違いがすぐに分かる材料の「種類・形・長さ」という視点に着目するのは容易です。これらに加えて、「付ける向き」という視点に気がつけば、例えば、渦巻状にした紙テープを縦に付けて、象が鼻を動かしている姿に見えていたのが、横に向けることにより、何かをとんとたたたく手にも見えてくるなど、同じ材料でも飾りの動きを変えることができるのです。そこで、本時、「材料の種類・形・長さを工夫してきたけど、材料がもうなくなった。」というA君の試しの作品を教師が提示し、子どもたちが、「材料を変えずに違う動きを見つけられないか」という課題意識がもてるようにしました。

話し合いの中で、作例の下に向いたモールを前に向けて、「ボクシングみたい。」に見えるという反応が出ました。その際、モールの向きを変える前後のポーズをとらせることで、腕の向きが変わっていることを強調し、「付ける向き」が飾りの動きの変化につながったことがとらえられるようにしました（集団吟味）。

その後さらに、「付ける向き」に着目しながら、自分の試しの作品で飾りを工夫し、どのように動きが変わったかを確認していきました。その際、本時、工夫した飾りと、前時までにつくった飾りを1つずつ取り外し、別の試し用のコップに並べて貼り付けさせました。それにより、コップの上部を押したとき、2つの飾りが同時に動き、動きの違いが比較しやすくなるようにしました（体験の言語化：特別支援教育の視点を取り入れて）。

参観された大学の先生方からは、「架空のA君の作品に対する課題解決は、子どもたちそれぞれの課題意識につながりにくかったのでは。」「別の紙コップに工夫前の飾りを貼る際、前時までの作品の写真に基づいてするのは、難しい面がある。」等、貴重なご示唆もいただきました。



【工夫前後の飾りを別の紙コップにならべて動きを比較】

3年 社会科「たんけん 発見 附坂小のまわり」

藤本 博文

社会科との新しい出会い。まず、子どもたちと「学校のまわりの様子」について話し合いました。「うどん屋さんがある」、「スーパーマーケットがある」、「高校や中学校がある」と、通学路で見たことがあるものを中心に経験を語りました。実際に探検して、建物には家や公共施設、建物以外にも田畑や駐車場があることを調べていきました。そして、子どもたちは、同じ学校の近くの道なのに、貞光線にはお店が多くて、学園通りにはそれほど多くないことに問いをもちました。

そこで、「どうして貞光線には、お店が多いのだろう」というめあてで学習しました。まず、探検で行った写真を見て、貞光線と学園通りにあるものは違うことを確認しました。貞光線と学園通りの違いから、道の広さ、バス停の有無、案内標識に書かれていること、という「道そのもの」で比べたらいいのではないかと考えました。案内表示をヒントにして、道がどこにつながっているのかという「道の先」も手がかりにして2つの道の同じところと違うところを比べて解決しようと話し合いました（集団吟味）。そのことにより、学園通りは、建物と建物をつないでいる道、貞光線はより広い地域と地域をつないでいる道、とそれぞれの道の特徴に気付いていきました。

さらに、貞光線の案内標識にある地名（高松・丸亀・つるぎ・貞光・松山）はどこにあるのかを調べました。主要道路を記入した四国の白地図を利用して、色鉛筆で貞光線からつながる道をなぞり、そこからつながる地域の広さを実感していきました（体験の言語化）。

このように、貞光線にお店が多い理由は、学園通りと比べて、より遠くの地域とつながっているからという問題を解決するとともに、「道を比べる」思考様式のよさを共有化していきました。



【写真から比べる内容を明らかにする】



【地図をなぞって道の先の地域を見る】

英語活動の取り組み

本年度の研究の視点

英語でコミュニケーションを図ろうとしても、様々な原因で、それがうまくいかない場合があります。それらの原因の一つに、相手との「文化」の違いがあると思われれます。例えばあいさつの場合、英語圏では、目を見て握手を交わすのに対して、日本では、おじぎをするといった文化の違いがあります。それぞれの国の文化に良い悪いはありませんが、その「違い」を意識しておくことは大切だと考えています。（この文化の違いには、言語の仕組みの違いも含んでいます。）

今年度本校では、この文化の違いに視点を当てて、英語によるコミュニケーション活動のあり方について研究を進めています。たとえ文化の違いがあってもコミュニケーションがうまく図れそうにない場合でも、その違いについて気付き、考え、理解し、外国の方とより良くコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成をめざしています。

授業の様子

第2学年西組 「なんの鳴き声？」

篠原智子 (HRT) ・ 和泉陽子 (JTE)



ミャオ
ミャオ

猫の鳴き方が、
日本とは違うよ。

クイズを通して動物の鳴き声の音声表現には、国によって違いがあることに気付き、日本語と英語の両方の動物の鳴き声を織り交ぜた歌を、体を動かしながら楽しく歌いました。

第4学年東組 「お客さんを給食に招待しよう」

西岡由都 (HRT) ・ 和泉陽子 (JTE)



Please come on.
アメリカのお客
さんだから、ジェ
スチャーは…。

言葉が通じない時に便利なジェスチャーにも、国による違いがあることに気付き、日本や外国からのお客さんを、相手に応じたジェスチャーで、給食に招待する練習ができました。

第5学年西組 「生活の中の英語って」

中田祐二 (HRT) ・ Boivin Tyler John (ALT)



シャーペン？
I don't know.

シャーペンって、
通じないんだ…。

自分たちが見付けた外来語の中には、もとの言葉が短くなったり、言いかえられたりして、タイラー先生には通じないものがあることに気付き、それをゲームに生かしていきました。

第6学年東組 「ライトじゃなくて Right」

山内秀則 (HRT) ・ Boivin Tyler John (ALT)



あれっ？
タイラー先
生が、反対
に行っちゃ
った！

「ターン・ライト (右)」と言われたタイラー先生が、電灯のある左へ行ってしまった原因が、LとRの発音の違いにあることに気付き、言葉の仕組みの違いに関心をもつことができました。

高等部

府中湖 カヌー教室

今年も6月2日(木)に、恒例のカヌー教室が開催されました。当日は曇り空でしたが気温も高く、水を切って進むカヌーに乗り、湖上で受ける風は最高に良い気分でした。この日を迎えるまでの準備も含めて、様子を紹介します。



プールで事前学習



1年前のことを写真やビデオの記録をもとに思い起こします。そして、今年チャレンジすることを決めていきます。1年生にとっては初めての体験。先輩たちの話を真剣に聞いています。

1年生が安心して取り組めるように、パドルの扱い方やカヌーの乗り降りの仕方を事前に学習します。



今年も、カヌー協会の福崎さん、幸田さんにご指導をいただきました。丁寧に、分かりやすく、楽しいカヌーの魅力を伝えてくださいます。また、本校事務室の高橋さんにも毎年ご指導いただいています。



準備もOK! いざ!本番



一人乗りに挑戦! スタートは緊張



二人乗りで安心! 気分爽快!



高橋さん よろしくお願ひします。

片付け・振り返り

一人ひとりが自分にできる役割を果たして活動を締めくくります。お礼の言葉には感謝とともに来年への期待が込められています。

附属特別支援学校では府中湖の近くにある「地の利」を生かした貴重な体験を毎年積み重ねています。生徒が楽しみな活動として毎年期待するとともに、休日や夏休みイベントへの参加の機会を広げるなど余暇に結び付き、様々な人とかわることで豊かな生活につながっていくことを願っています。

今年のコメント

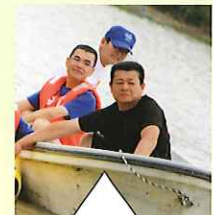


今年は、自分の
行きたいところ
に進めました!
(2年生)

まさに“飛び入り”カヌーに
ヘラブナが入ってきました!



沈(カヌーがひっくりかえること)
する人がいませんでした!



特別支援教室「すばる」の今とこれから

特別支援教室「すばる」はこれから・・・：室長私見 惠羅 修吉（教育学部特別支援教育講座）

特別支援教室「すばる」は、平成15年度の開設以来、9年目を迎えました。平成18年度に始まった文部科学省特別経費「特別支援教育促進事業」の5年計画プロジェクトを昨年度末に終了し、平成23年は新たなスタートの年となりました。スタッフにも大きな異動がありました。開設から今日に至るまで「すばる」の活動をあらゆる側面から力強く推進してきた馬場広充先生が高松大学に転出されました。プロジェクト研究の5年間で3回にわたり特別支援教育研究大会を開催し、本学の特別支援教育研究を全国に向けて発信することができたのも、特別支援教室次長としての馬場先生の存在はとても大きなものでした。馬場先生の転出に伴い、特別支援学校より秋山嘉光先生が新スタッフに加わりました。室長は、武藏博文先生（教育学部教授、本年度より附属特別支援学校校長）から惠羅に交代しました。研究員の田中栄美子先生と相談員の船橋奈生子先生は、今年度も継続してそれぞれの業務を担当しています。この他、教育学部特別支援教育講座、附属坂出幼・小・中・特別支援学校からの応援スタッフも活躍しています。



スタッフに出入りはありましたが、これまで「すばる」が推進してきた4つの事業、すなわち、「相談事業」「学習指導事業」「研修・教育事業」「研究事業」はすべて継続して実施しています。本年度は、以上の4事業を実施するとともに、新たな展開を見据えて事業内容の見直しをはかる一年にしたいと思います。特に、「研修・教育事業」と「研究事業」の内容について検討する予定です。

「研修・教育事業」については、「すばる」で受け入れている現職教員内地留学生のための研修内容を充実させたいと思います。今年度は、特別支援学校より尾藤栄子先生、小学校より河邊真由美先生を内留生として迎え入れました。現在、私や「すばる」スタッフも含めて、事例検討と文献紹介のゼミを開催しています。今後は、心理検査の実習などの研修機会を設定する予定です。

「研究事業」では、私の専門でもある心理アセスメントの研究に主眼を置きたいと考えています。この6月30日、元教育学部教授黒田直実先生が御逝去されました。告別式で東北大学名誉教授松野豊先生の弔辞をお聞きし、黒田先生が本学で障害児のための神経心理学的研究を推進されたことの意義を改めて認識しました。本学の障害児心理学には神経心理学の伝統があり、それを今後に生かすためにも神経心理学的視点による心理アセスメントの研究を進めることが重要であると思いました。私は、松野先生・黒田先生とは出身大学が異なりますが、ほぼ同じ学問的基盤で研究を進めてきました。力不足であることは否めませんが、黒田先生が始められた神経心理学的研究を継承し、「すばる」の研究事業として、科学的根拠に基づく心理アセスメントの充実を図りたいと思います。

2か月半の個別指導から～認知特性に基づく支援の在り方 秋山 嘉光（特別支援教室「すばる」）

「すばる」に通う子どもたちのなかには、自閉圏の自閉症スペクトラム障害と呼ばれる発達障害をもつ子どもたちがいます。一般的に、視覚支援やスケジュール提示などの支援が有効とされていますが、それらにも障害の実態に基づいた理由があります。視覚支援は想像力の弱さや見えないものへの理解の困難に対する支援です。例えば場面に応じた大きさの声で話すことが難しい子どもには、声のボリュームを数値化した表を提示し、「発表する時は4の大きさで」などと支援すると理解が進む場合があります。また、スケジュールの提示はプランニングの困難への補償支援とされています。



ここに挙げた例はほんの一部にすぎませんが、子どもが抱えている認知特性上の困難を十分に把握し、それぞれに応じた適切な支援を展開することの重要性を日々の実践のなかで実感しています。

幼稚園より

絵本読み聞かせ

ボランティアで絵本の読み聞かせにご協力いただいています。季節にあった絵本、保護者ご自身が大好きな絵本、大型の絵本など、それぞれの思いでしてくださっています。

子どもたちはおうちの方の読み聞かせをととても楽しみにしていて、キラキラした瞳とダンボのように大きくした耳で聞き入っています。“お母さんの声”って子どもにとって一番落ち着けて心地よいものですね。大好きなお母さんたちが一生懸命読んでくださる読み聞かせは、子どもたちにとっても大切なひとときになっています。今後ご協力をよろしくお願いたします。

おやつ作り

保護者有志による手作りおやつの活動も、早7年目を迎えました。毎回、季節感あふれるメニューを考えて、朝早くから準備して下さるお母さんたちの姿と漂ういい匂いに、子どもたちの胸は高まります。だから、ちょっぴり苦手なお野菜なんかも思わず“パクッ”と食べちゃいます。また、空っぽのお皿を見せながら、「おいしかったよ〜」「もっとないん〜」と弾んだ声で伝えにくる様子は、おやつ作りを頑張ってくださったお母さんたちにとって、たまらなく嬉しいことです。

今後とも安全で安心なおやつの提供にご協力くださいますようよろしくお願いたします。



大型絵本って面白い



時にはお母さん以外の家族も!!



「もうすぐできますよ」

小学校より

6月19日(日)に土曜メンテナンスとして、今年で3年目を迎えた「校庭の芝生化」を実施しました(今年も昨年と同様に、日曜日に実施)。当日はあいにくの雨でしたが作業を始めて少しずつ雨もあがり、土も水気を多く含んでいたせいか作業は随分と、はかどりました。一昨年と昨年に植えた芝生も梅雨で緑がいきいきとし、その横に植えた小さな苗と見比べる子供たちの姿が印象的でした。その後、運動場の水たまりが出来やすい場所への土入れや歯磨き台の緩んだボルト絞めを行いました。最後に親子ドッジボール大会をして楽しく過ごしました。保護者のみなさん、先生方ご協力をありがとうございました。



中学校より.....

6月26日(日)にオープンスクールがありました。1年生2年生は体育館にて音楽発表会があり、さわやかな歌声にむし暑さもしばし忘れることができました。



授業参観の後は親子セミナーとして、附属小学校の保護者でもある桂こけ枝さんの、「笑顔は対話のビタミン剤」の講演会がありました。「笑いで病を吹き飛ばす細胞が増えること」「気にせんでええことは気にせんでええ」など、明日からでも実践できる有意義な言葉に、うなずいたり笑ったり、あっという間の時間でした。夢の実現に向け、明日から「笑いで元気に学園生活を送ることができたらと思いました。

その後、学級PTA、部活動保護者会と、盛りだくさんな1日となりました。



桂こけ枝さんの講演



1年生の音楽会



2年生の音楽会

特別支援学校より.....

親和会の活動について ～9P連～



新年度がスタートし、親和会も新体制になりました。神余会長をはじめ松韻会の皆さまには、合同運動会等の各種行事にいろいろとご支援・ご協力いただきありがとうございます。今年度もよろしく願いいたします。

今回は親和会の活動のひとつとして、「香川県立特別支援学校PTA連絡協議会(以下9P連)」についてご紹介したいと思います。

9P連は香川県にある特別支援学校9校で組織され、障がい種別を越えて相互理解を深める事を目的に、事務局当番校が毎年交代で運営されています。今年度はわが校が当番校となり、6月22日(水)第1回運営委員会が開催されました。

当日は、香川県内特別支援学校のPTA会長・親の会会長等PTA役員・各学校長等約50名が参加し、今年度の事業計画の検討や、情報・意見交換が行われました。特に3月11日の震災を受けて行った各校の災害時対応についての意見交換では、各校独自の取り組みや食糧備蓄・調達方法等、ユニークな取り組みを知る事ができました。

また、事前にアンケート形式で返答をもらい各校に配布していたため、既に単位PTAで取り組みについての話し合いをもたれていた学校もあり、お互いに防災意識を高める事に成功したと思います。

この会は年度内に3回予定されており、次回は10月。さらに交流を深める事ができればと思っています。



修学旅行

3年生は4月11日(月)～15日(金)まで4泊5日の修学旅行を行いました。屋久島では天候に恵まれ、素晴らしい自然を満喫しました。また、今年新しい試みとして、阿蘇での民泊と農業体験学習を取り入れました。わずか1日でしたが、地元の方々の温かいおもてなしに感激し、普段経験できない貴重な体験ができた有意義な活動になりました。



弁論大会

5月23日に校内弁論大会が行われました。各学級から選ばれた9人の代表者が、命の大切さや人権について考えたことを、堂々と発表しました。今年は非常にレベルの高い弁論が多く、全校生徒が真剣に聞き入る姿が印象的でした。選考の結果、2人の代表が6月16日の坂出綾歌地区弁論大会に出場し、2年生の塩田真琴さんの弁論が見事1位となりました。塩田さんは7月7日の県弁論大会にも出場し、ご準優勝となりました。



中学校

歯磨き指導

6月16日(木)、歯科衛生学科の学生さんを招いて歯磨き指導が行われました。1年生では、動物の好きな食べ物と歯の形をつなげて、歯の役割を考えていきました。2年生では、1番大切で1番むし歯になりやすい6才きゅう歯に視点を当てて、磨き方を学びました。3年生では、子どもの大好きなおやつとむし歯の関係を知り、上手なおやつを食べ方と磨き方を学びました。4年生では、半分にフッ素をぬった卵を酢に入れるとフッ素を塗ってないところだけが溶けていく現象を観察しました。お茶には歯を守るフッ素が含まれていることも知り、むし歯予防に役立つことを学びました。5年生は歯肉炎、6年生は歯周炎について知り、その予防について学びました。学年に応じた指導を毎年受けることで、歯を大切にすることを高め、日々の歯磨きに活かしていきたいものです。



英語自由参観

6月23日(木)、24日(金)、英語活動の自由参観が行われました。学級担任と英語教員がチームを組んで指導にあたり、英語に楽しく取り組んでいました。歌やジェスチャーもエネルギーで大人顔負けでした。低学年では体を使って、中学年では耳や口を使って、高学年では頭と心を使って、英語活動を進めています。英語大好きの子どもが増えてくることを願っています。



小学校

特別支援学校

快晴！春季運動会

5月15日(日)の春季運動会には、卒業生・地域の方々とともに、附属学園からもたくさん参加していただき、ありがとうございました。小学部と中学部、中学部と高等部など学部間の交流競技や、卒業生や来賓の方々とのふれあい競技など、温かく楽しい運動会となりました。また、着ぐるみの動物たちの参加も恒例となり、楽しい運動会に一役買っています。

今年は、地区別対抗リレー(坂出、丸・綾・仲連合、高松地区)が新規参入しました。リレーには、附属中学校の生徒さんや本校の教員も参加し、大変な盛り上がりを見せました。今年度は丸・綾・仲連合が優勝しましたが、さて、来年は？



幼稚園

4月 初めての身体計測

黄組さんにとっては、入園後の初めての身体計測です。青組がお手伝いに行きました。優しく服を脱がせてあげたり、自分でしたい黄組さんには手伝わずに見守ったり・・・おかげで、黄組さんも安心してできました。



5月 ハムスターの赤ちゃん誕生



赤組の雌のハムスター「リボンちゃん」と、青組の雄の「レモン君」の間に、赤ちゃんが7匹産まれました。とてもかわいらしく、子どもたちは優しい気持ちと、ドキドキわくわくの気持ちで成長を見守りました。もう、お父さんとお母さんと同じくらい大きいです。

6月 金比羅さんへ園外保育

青組は、電車に乗って金比羅さんへ行きました。公共のマナーも守り、長い階段も登り、神馬にも会い、伝統文化にも親しめました。階段の途中、いろいろな人に「がんばれよ」「どこから来たの？」と声をかけてもらったり、お弁当を食べた公園の池に鯉の赤ちゃんがたくさんいたり、小さな感動がいっぱいあった心に残る一日となりました。



編集後記

今年の夏も、昨年に引き続き、猛暑日が続いています。子どもたちは、水泳の時間を待ちわび、太陽に負けないようなぎらぎらした瞳で水泳に取り組んでいます。

本号では、一学期のたくさんの行事の中から、各校の行事を抜粋して報告させていただきました。研究の方もテーマの実現に向け、具体的な実践を積み重ねているところです。4校園が連携し、さらに研究を深めていきたいと考えております。

今後とも、皆様方のご指導・ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

発行年月日：2011年7月19日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

宮野 真也 樽本 導和 (附属坂出小学校)

寺岡 英郎 小林 理昭 (附属坂出中学校)

武田 光弘 尾崎 仁美 (附属特別支援学校)